

## ペルー ブルーベリー輸出量は当初の予測より4.1%増加

[FreshPlaza](#) 2024年12月20日

### ペルーの2024-25年度のブルーベリー輸出量は32万4千トンに達する勢い

ペルー産ブルーベリーの2024-25年度の輸出総量が、当初の予測を4.1%上回る32万3,928トンに達すると予想され、ペルーは世界最大の輸出国としての地位を確固たるものにする。ペルー・ブルーベリー生産者輸出業者協会(Proarándanos)の統括マネージャーであるルイス・ミゲル・ベガス氏によると、この成果は、市場の多様化、品質の向上、消費者の期待への対応等の戦略によるものである。

米国は従来からペルー産ブルーベリーの最大の輸入国であり、輸出の53%を占めている。しかしながら、ペルーは20カ国以上に輸出先を拡大しており、ヨーロッパと中国が重要な市場として台頭してきている。この多角化戦略は米国市場への依存度を低下させ、現在、輸出の25%を欧州が、14%を中国が、5%を英国が吸収している。

ベガス氏は、ブルーベリーの97%が海上輸送されており、物流が世界市場におけるペルーの存在感にとって重要であると指摘している。産地と国際港を効率的に接続することは、製品の品質を維持する上で不可欠である。

ブルーベリーの主力栽培品種がビロクシからベンチュラやセコヤポップ等のより新しい品種へと変化したことは、市場の需要に応じたペルーの適応力と革新を反映している。この変化は、市場におけるペルーの競争力にも貢献している。

ペルーのブルーベリー輸出のうち有機栽培品は現在11%で、成長を続けており、持続可能な栽培方法への取り組みと、有機農産物に対する消費者の嗜好への対応を示している。

これらの進歩にもかかわらず、業界は競争的な価格圧力や気候変動の影響などの課題に直面している。品質を犠牲にすることなく競争力を維持するには、技術革新と持続可能な栽培方法が必要であるとベガス氏は指摘している。

ブルーベリーセクターは、主要産地であるラリベルタ、ランバイケ、イカの各県等の地域に多くの雇用を提供し、地域経済を支えることで大きな影響を与えた。同氏は、ペルーの何千もの家族に収入とチャンスを生み出すこの業界の重要性を強調している。

出典: [Blueberries Consulting](#)